

平成22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473400453	事業の開始年月日	平成16年7月1日
		指定年月日	平成22年7月1日
法人名	株式会社アルテディア		
事業所名	グループホーム笑楽庵		
所在地	(〒246-0025) 神奈川県横浜市瀬谷区阿久和西2-39-10		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・利用者の個々の能力に合った生活が送れるように出来ることをして頂きやりがいを見つけられる環境作りに努めています。
- ・自治会の行事参加や近隣の方、保育園等の交流を大切にして楽しんで頂いています。
- ・利用者の発見や刺激の為、外出レクやホーム内のレクを様々なやり方で工夫して実施しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年4月20日	評価機関 評価決定日	平成23年6月21日

【評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

- 【事業所の概要】**
相鉄線・三ツ境駅からバスで10分、バス停から徒歩2分、大通りから少し入った住宅地の静かな環境にある。
- 【自立を助けるケア】**
理念のもとに利用者の思いを尊重し、能力に応じて自己決定を支援し、自分で生活できるよう、手助けをするケアを目指している。昔、調理の仕事をしていた利用者が職員と食事作りをしたり、進んで掃除や片づけをし、職員と一緒に生活している。毎日の散歩、外出行事、外食、地域行事への参加など毎日を楽しんでいる。
- 【職員の教育】**
利用者ができるだけ自立して生活ができるように、介護計画の重要性の理解・実践、介護する職員が利用者を大切に思い、笑顔で働くことで利用者も笑顔になれるということ徹底している。各種の委員会を作り、会議で話し合い、運営に活かしている。開所以来7年、認知症ケアを充実させている。
- 【重度化への準備】**
高齢化してきた利用者のターミナルケアに取り組むため、重度化ケアについて職員と話し合い、研修を行い、家族、協力医と相談して、看取りを行う意向である。
- 【防災対策の充実】**
消防署への通報装置、スプリンクラーなどの設備が整えられ、防災訓練を年2回、地域住民が参加して実施している。非常時には避難した利用者の見守りをしてもらえるようになっている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

事業所名	グループホーム笑楽庵
ユニット名	2Fユニット

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時、管理者より理念について説明をしている。会議時理念について話をし共有している。カンファレンスで再度振り返り共有し役立てている	理念をもとに職員の行動指針を作り、利用者の能力を活かし、自己決定の継続が出来るようなケアを目指している。各フロアに理念を掲示し、会議や日常的な場で話し合い、理念の実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の理事を職員が担当し、情報収集し参加できる行事には参加している。近所の保育園や幼稚園との交流をしたり、散歩時は挨拶声かけをする。花や野菜の頂きものがある	自治会に加入し、地域のお祭りや運動会に参加したり、防災訓練や地域の見守りの会などに職員が出席し、ホームの紹介をしたり情報を得たりしている。近くの幼稚園児や踊り、キーボードやハーモニカ演奏のボランティアが来所し、事業所主催の納涼祭には近隣の人達が大量参加するなど、利用者との交流の機会を作っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会見守りの会に参加しホーム内の事を提示している。避難訓練や行事や研修生受け入れ等を通じ参加を募り認知症の理解を促している		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に数回の運営推進会議を開き、参加者の意見を参考にして地域資源の活用、地域の方の要望をできるだけ受け入れ実施に努めている	今年度の運営推進会議は、利用者、自治会長、民生委員、地域包括支援センター担当者が参加して2回、開催した。事業所の活動の状況報告をし、防災、地域行事などについて意見交換が行なわれた。諸事情が重なり、回数が少なかったが、来年度は多く開催する意向である。	運営推進会議の回数を増やし、利用者の家族も加えて充実させることを期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活、医療の支援を市町村の担当と相談して行っている	市の高齢福祉課の事業指導室、生活支援課、地域包括支援センターとの相談や情報交換を行っている。管理者が市のキャラバンメイトの指導者でもあり、認知症ケアの事業に貢献している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議、カンファレンス時に身体拘束について再確認、しない事への意義、した場合の対処法を職員で共有している	マニュアルに基づいた研修を行い、また会議などで話し合っ身体拘束を行わないケアに努めている。利用者の外に出たいという思いを阻止せず、見守りを十分に行うことで、玄関、ユニットの出入り口は施錠していない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内で研修を行っている。また、職員のメンタル面の状況を把握し面談を行い、課題抽出、問題解決している		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行っている。事実、支援事業、成年後見人の利用はないがいつでも行えるように努めている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前説明として入居者宅、家族宅に伺い面談を行っている、その際にニーズの引き出しを行い、援助が出来るよう努めている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、自由閲覧としている。出た内容は会議時に職員間で精査し、反映できるよう努めている	毎月、利用者の状況を手紙で報告したり、電話連絡の時に「何かお困りのことはありませんか」などと声をかけたりして、意見を聞くように努めている。特別の要望もなく、感謝の言葉が寄せられている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・管理者主任会議等に代表・本部長が定期的に参加し意見の吸い上げを行っている	運営、レクリエーション、防災、広報、記録の各委員会を作り、意見をフロア会議、全体会議で取り上げ、運営に活かしている。職員が自発的に行動することを管理者がサポートし、自信を持てるようにしている。職員の提案を基に、バイタル表の様式の見直しなどを行った。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力考課を行い、個々の課題解決、良い所を伸ばす等を面談形式で行っている		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内考課制度を利用し、面談にて把握に努めている。また、その結果をもとに個々にあった研修の参加、現場でのコーチングを行っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社外研修に参加することで交流できる機会を提供している。また、法人内でも他職場体験を行うことで慣れで行っていることに気付き、互いに意見交換する場を作っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔であいさつ、傾聴、同調から入り過去の生活歴を探り、その方らしい生活を送れるように、またここに来てよかったと言って頂けるよう利用者の目線に合わせた接し方に努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前段階で面談を行い、不安・要望を傾聴している。また、普段よりいつでも連絡を受けれる体制を作っている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談を行った段階で、その方にあった支援方法を引き出しサービス担当者会議にて検討、ケアプランに反映している。また、GHの必要性ではないと判断した場合はその他紹介等も行っている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは自分で行って頂き掃除、洗濯、調理、また相談をしたりしている		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係が途切れないよう、話の食い違いが無いよう常に状況報告等の連絡を行っている。また、家族に支援についての協力依頼を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活歴を引き出しレク等を通じ、出来る限りの支援をしている	職場時代の友人や、前に住んでいた場所の知人などが訪ねてくれるので、居室でゆっくりと過ごしてもらっている。電話の取り次ぎや手紙を出すことを手伝っている。長く住んでいる人も多く、近くの行きつけの公園で魚に餌をやるなどして楽しんでいる。牛丼屋に行き、昔を懐かしがることもある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会議の場で状況・状態の把握に努めている。出来ることは自分で行う環境を作ることでそれぞれが役割を持っている認識が出来ている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後でも連絡を取り合い現状、困りごとや悩みを聞いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話やレクなどを通じて把握している。また検討会を行い、ケアプランに盛り込んでいる	入居時のアセスメントや日常の会話などから利用者の要望、意向を把握している。表現の困難な人の思いや意向は、日々の様子、動作、しぐさから、また絵や文字を見てもらい、その様子から汲み取るようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話、生活の中で情報を引き出し把握に努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し本人の状態を職員間で把握するように努めている、また可能性を模索する為、色々なお手伝いをお願いしている		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	都度、家族・本人とは話し、ケアプランに盛り込み実践している	居室担当者からの情報をもとに、月2回のカンファレンスで話し合い、見直しをしている。介護計画を意識し、ケアの実施内容をケア記録に記入している。その内容をもとに3カ月に1回、モニタリングをし、家族に承認を得て介護計画を作成し直している。利用者の自己決定を支援し、能力に応じて自分で生活が出来るような介護計画を作ることを心がけている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを持つ事を管理者が普段から言っている。その得た気づきをカンファレンスで検討している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既成概念にとらわれない介護サービスの提供は周知している		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の催し物の参加、レクの提供をしている、社協を通じてレクボランティアの依頼をかけている		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が納得された医療機関での通院受診・往診受診をご案内している	入居前からのかかりつけ医を受診する人2名には家族が対応している。その他の人は協力医の往診を受けている。隔週の往診に加え、医師の好意で2日おきに、また必要に応じて利用者の様子を見に来てくれるなど、24時間の対応がとられている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があれば、看護師に報告相談をし、Drに判断を仰いでいる		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と連絡を取り合い、また、面会に伺い看護師に現状を伺っている。またこちらからも生活状況などの情報を提供している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期についてご家族・往診のDrとの話し合いを行い、対応について協議している</p>	<p>重度化について今年度は職員の研修を行い、対応できる態勢作りをした。家族、医師と相談し、ターミナルケアを行う意向である。</p>	<p>重度化している利用者も多くなっているので、ターミナルケアのより良い方法を全職員で模索し共有することを期待します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>社内研修・事例検討会を定期的に行っている</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の総合訓練を行っている。近隣の方の参加協力を得ている。また会議時にも職員への周知徹底を行っている</p>	<p>年2回、消防署立ち会いで、1回目は消火と避難訓練、2回目は夜間想定で地域の方が参加のもと行われた。地域の人に避難後の見守りをお願いするようにした。地域の防災訓練には職員が参加して自治会に協力している。地域の方の受け入れも予定している。非常用品の水、食料など2週間分くらいを備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の考えを否定せず自己決定の尊重を行うよう職員には周知徹底をし対応に努めている	職員には言動に注意して利用者のプライドや尊厳を傷付けないよう、研修で周知させている。利用者には個人名や「お父さん」「お兄さん」などその人が求めている気分を良くしてもらえるような名前と呼ぶように配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者1人1人の意見が表現できる場面（レク等）を増やし、自分で決めることが出来る環境作りに努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の意思決定を尊重した支援を行っている。会議時に職員間で話し合い、検討し実践するよう努めている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服に関してはどれを着ますか？と声かけを行っている。髪型も本人の希望通りにカットしてもらっている。化粧をするレクの提供もしている		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に協力を得ながら調理を行っている。その日の体調に配慮しながら出来ることを行って頂いている（野菜切り、洗い物、食べたい物の選択等）	献立と食材は栄養を考慮して食材業者のものを利用している。経験のある利用者が職員と一緒に調理をし、盛り付け、片付けなどを進んで行っている。職員は介助や話をしながら利用者と一緒に食事をしている。レストランでの外食や出前などは好きなものを選んで楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に残すことで入居者の状況を把握している。食事に関しては、栄養士監修のもとのお食事を提供している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じ、支援、介助で口腔ケアを行っている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、しぐさや言動から気付きを持つように努めている。また声かけを行い本人の意思確認をしている	排泄チェック表で利用者それぞれのパターンを把握した上で、表情、動きなどの様子を見て声掛けや誘導をしている。入居時にはハビリパンツだった人が布パンツになった例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	投薬や水分提供・体操等提供している		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の入浴リズムを把握し、入居者の意向を伺って入浴を提供している	自立の人も多く、ゆっくり入浴してもらうため、そっと見守る方法をとっている。介助の必要な人には見守りや介助をしている。湯は1人ごとに替えており、入浴後、栓を抜いて手伝ってくれる利用者もいる。沐浴剤、ゆず湯、菖蒲湯などを楽しんでいる。入浴しながらいない人には沐浴剤の匂いで誘ったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床は本人の意思で行って頂いている。不安があり起きてこられる場合はそばで話を傾聴し、落ち着かれるまでそばにいるよう努めている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の把握、不明点は調べたりDrに質問している。また職員間で新しい処方が出た際には互いが報告しあい、薬に対する知識の周知を行っている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	釣りに行ったり、買い物に行ったり、個々のニーズに合わせた生活を提供している		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行きたいとおっしゃる時、どこどこに行きたいとおっしゃる時は状況（雨・インフルエンザ等）に応じ、随時提供している	天候の良い日には毎日、交替で近くの公園まで散歩に出かける。毎月の行事で相模原公園、桜、ヒマワリ、ホタルなどを見に出かけている。外食や買い物に出かけるなど、外出を多く取り入れ、利用者を元気にしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々でお金を持って近くのセブンイレブンに買い物に行く支援をしている。そこで自由購入としている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいとおっしゃれば電話を渡すように支援している。手紙は代筆等を行っている		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーを作成し、掲示したり行事のディスプレイを飾ったりしている	日中、利用者の多くが過ごすリビングは、窓が大きく明るい。体感を大事に、室温を25度前後に調節している。壁には利用者が作った折り紙を貼った絵、桜の貼り絵、手作りの日めくりカレンダーがあり、季節感を出している。テレビを見たりソファで休んだり、気持ちよく過ごせる場になっている。利用者が進んで職員と一緒に掃除をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには向きあいでのソファを設け、談笑の場としている		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの生活としてご本人が使用していた家具や衣類を持ちこんで頂くことが可能である。入居後も同様、本人と家族の自由にして頂くように配慮している	居室の使い方は利用者と家族に任せており、あまり手出しはしないようにしている。ベッド、テレビ、机、椅子、鏡、冷蔵庫などを置き、写真、縫いぐるみ、絵など好きなものを飾っている。きちんと整理された部屋や、いろいろなものを積み上げた部屋など、利用者好みの生活の場になっている。清掃は職員も手伝っているが、利用者も自分で行っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・風呂場と表記している。居室には名前と写真をドアに掲示している。危険物の把握を徹底している		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	ターミナルケアのよりよい方法	可能な限り安心安楽に過ごして頂く為の看取りへの理解と浸透の徹底	勉強会を適時行う、本の購入、資料の提示、体験者からの聞き取り、ロールプレイ、看取りの指針	12ヶ月
2	3	運営推進会議の充実	2ヶ月に一回の開催	日程の調整、参加への働きかけ、会議内容を参加意義を持てる内容にする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。